



高松市のまちづくりの基本となる第6次高松市総合計画が昨年3月に策定され、新たなまちづくりがスタートしました。そこで、キーワードとなる「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」をテーマに、これからまちづくりについて大西市長に聞きました。

【聞き手】 西日本放送アナウンサー 小御門 千絵さん

## 2016年を振り返って

**小御門**

新しい年がスタートしましたが、昨年(2016年)を振り返ると、どのような年でしたか。

**市長**

昨年は、第6次高松市総合計画がスタートし、人口減少、少子・超高齢社会を見据えた本格的なまちづくりの第一歩を踏み出した年であったと思

います。

また、4月の末にはG7香川・

高松情報通信大臣会合が開催され、高松の地において主要7か国のCEOなど

の代表団が集まり、高松宣言として合意文書を取りまとめられました。



3回目となる瀬戸内国際芸術祭2016では、瀬戸内の島々を中心に多くの来場者でぎわいました。今回、来場者数自体は前回の開催時を少し下回りましたが、前回に比べ、外国人の来

場者の割合が10ポイント以上増えるなど、「世界の中での

高松」ということを意識できた年であったと思います。

## 今年の抱負を漢字一文字で表すと

**小御門**

では、今年のまちづくりに向けた抱負を漢字一文字に表すと何になりますか。

**市長**

いろいろ迷いましたが、「繋(つなぐ)」という文字にしました。今年は特に、これまで私が掲げてきた、多核連携型コンパクト・エコシティを実現するために、これまでの拡散型のまちづくりから、集約型のまちづくりに変えていき、それと同時に各地域に集約したそれぞれの核を繋いでいく「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりがテーマになります。「繋」(ネットワーク)の部分は公共交通が担います。また、コミュニティの再生においても、人と人との繋がるネットワークを大切

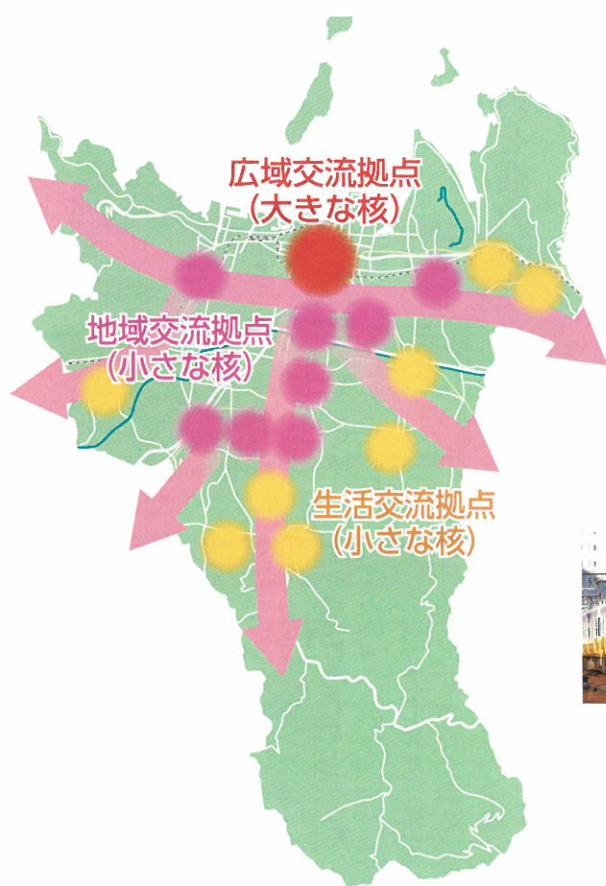


# みんなが笑顔で元気に暮らせる高松～コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり～

にしていきたいと思います。地域包括ケアシステムの構築においても、住み慣れた地域で高齢者が自分に合ったサービスなどを受けるために、人と人とのネットワークが大事になってしまいます。そのようなことから、「繋」という文字を選ばせていただきました。



これから到来する人口減少、少子・超高齢社会に対応するには、拡散型から集約型のまちづくりに切り替える必要があります。そこで、中央商店街を中心とした中心市街地を大きな核として、また、ことでんやJRの駅周辺にある昔ながらのまちを小さな核として、そこに公共施設や商業施設などの都市機能や居住人口を再び集約する「多核連携型コンパクト・エコシティ」を進めています。この取り組みには大きな核と小さな核を公共交通で繋ぐ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方が鍵となります。



多核連携型コンパクト・エコシティ



具体的には、交通事業者と連携(ICOカード「IruCa」を活用)して、電車とバスの乗継組みを進めてきました。

**市長** 普段の生活では、車での移動が便利ですが、この状況を放置しておくと公共交通は利用されなくなり衰退してしまいます。また、それにより、交通事業者の収支が悪化することで、路線や便数が減少し、さらに不便になると、いう負のスパイラルに陥ってしまします。こういった悪循環を好循環に変えていくため、平成25年に「高松市公共交通利用促進条例」を制定し、公共交通の利用促進に向けた取り組みを進めてきました。

電車↔バス  
乗継割引拡大!  
好評実施中!

20円引き  
100円引き

得

## キーワードは公共交通

利用を促進するため、「乗継割引」をそれまでの20円から100円(市が80円上乗せ)に拡大しました。効果は非常に高く、乗継件数が実施前から3割ほど増加しています。



**小御門** コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりについて教えてください。

**市長** 高松市はもともとコンパクトなまちで、高松駅を起点に8つの商店街を中心とした中心市街地を大きな核として、まち全体が成り立っています。しかし、モータリゼーションの進展と相まった道路網の整備により、郊外で

このほか、地域住民の皆さんのが自発的に地域交通を守り育していく取り組みも進んでいます。山田地区乗合タクシー「どんぐり号」です。地元自治会の人たちが、市の助成制度を活用しながら地域の交通事業者とコミュニティバスを運行しています。モデル的な成功事例として広く周知し、全市域に広げていければと思っています。

くことで、外出機会の創出や健康づくりにも寄与していると感じています。



に、電車やバスの運賃を半額にする「ゴールドーIruCa」の販売を開始しました。市内在住の70歳以上の人口の約2割に相当する枚数を売り上げ、公共交通に縁のなかつた高齢者の方々にも利用していただき

くことでも、外出機会の創出や健康づくりにも寄与していると感じています。



## 新たなネットワーク

**小御門** 電車がさらに便利になるとお聞きしましたが。

**市長** 「ことでん琴平線」の三条～太田駅間と太田～仏生山駅間に、2つの新駅を設置します。

また、仏生山駅周辺では、南部地域の拠点となるよう、新病院の開院に併せ、駅のバリアフリー化や駅前広場の整備も進めています。これらの事業は単に鉄道の利便性を高めるだけでなく、併せてバス路線を再編することにより、鉄道とバスが連携するような公共交通ネットワークを作つていきたいと思います。

特に、仏生山では、拠点性の向上のため、支所、出張所などに代わる新たな総合センターの整備を行うことにしています。



ています。この総合センターは、市役所の本庁に行かなくてもある程度のサービスが受けられ、さまざまな相談にも対応できる施設です。このような取り組みを進めながら、市域全体のバランスのとれたより効率的なまちづくりを行っていきたいと思っています。

## 集約を進めるために

**小御門** 民間事業者が行う開発行為自体には、どのような対応をされるのでしょうか。

**市長** 開発を指定する区域へ誘導するなど、さまざまな施策がありますが、まずは、どのような方向性にするのか明確にしていかなければならないと思っています。

最近、まちづくりのための法律が改正され、国において、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを支援する「立地適正化計画」が制度化されました。これは、まちをコンパクトに集約するために、ある程度区域を定めて、そこに誘導するような施策を展開するというものです。高松市においても、これまで進めてきた多核連携型コンパクトエコシティの拠点となる、市中心街地の大きな核やそれぞれの地域における小さな核に、この制度を適用して、コンパクトなまちづくりを進めたいと思っています。

## 人と人との繋がり

**小御門** 最後に、今年の抱負をお聞かせください。

**市長** 人口減少、少子・超高齢社会の到来は避けることのできない現実です。

その中で、いかに市民の皆さんのが、活力を持って心豊かに暮らしていくのかが重要となってきます。そのためには、ハード、ソフト両面において、いろいろな対策が必要だと思っています。

ハード面では、先ほどから申し上げている公共交通網の整備・再編を中心とした「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を進めていきたいと考えています。

ソフト面では、文化・芸術・スポーツなどの人間的な活動をより活性化させる「創造都市の推進」を進めていきました。

また、少子化・超高齢化が進んでもそれぞれの地域において、高齢者や子どもが孤立しないような仕組みづくりが必要だと考えています。そのためには、それぞれの地域内でネットワークをつくりだしていく「コミュニティの再生」を進めていきたいと思っています。

今年の一文字を「繋」としましたが、地域の中で人と人との繋がりをきちんと育てた上で、子ども子育て支援や高齢者の介護に関する支援などが、本当に機能していく地域社会づくりが必要だと考えています。



### 市政紹介新春特別番組

「みんなが笑顔で元気に暮らせる高松  
～コンパクト・プラス・ネットワークの  
まちづくり～」

放送日 1月3日(火)午前6時45分～7時

再放送 1月8日(日)午前2時25分～2時40分

放送局 西日本放送(RNC)

このようなまちの実現が、「子どもからお年寄りまでみんなが笑顔で元気に暮らせる高松」に繋がるものだと考えており、取り組みをさらに進めていきたいと思っています。

